

得たもの	満	選択理由(1満足~5不満足)	今後取り扱って欲しいテーマ・内容等	その他ご意見・ご要望等	ご所属・お名前等
アメリカの実態と日本の実態をつないで、日本の各大学に合ったIRの導入・実質化という段階に来ていると思うので、その意味で最新の情報を絞った問題意識に基づいて報告した貴重な機会だった。	2	IEという概念について知ることができたため。 IRとアセスメント(説明責任⇄改善)の関係について理解が進んだため。	IRに関する領域(分野)分類。 教学IR、学生支援IRなどの言葉の、全体を概観できると良いと思う。	質問へのご回答ありがとうございました。	私立
米国のIRの一端、またIRとIEとのつながりが理解でき、大変有用だった。	2	紹介された各大学の入学要件や卒業(修了)要件、各コースの評価法も加味した話が聞けるとさらにありがたい。 ex.評価法についても概ねの指標は大学から提示されているのか。 学生授業アンケートの利用はどうか。	日本型IRの必要性、必然性 IRが大学教育を変える		公立
これまで「IE」という概念を持っていなかった。その違いや、米国のIR、IE、アセスメントなどの実情全般について知ることができ良かった。	1	左記の通り。前半が報告(プレゼン)、後半に質問用紙での質問という形式も良かった。	日本におけるIE、IRの先行事例		私立
アメリカではそれぞれの大学でそれぞれの事情に合わせたIRを行っていること。 アメリカと日本では高等教育の様々な事情が異なり、その事情を踏まえないと、そのまま日本にはアメリカの事例を適用できないこと。	1	タイプの異なるIRの事例がわかり、良かった。		データの収集そのものから始めなければならない日本の大学においては、アメリカ以上に切実に困っていること、課題がないとなかなか上手くいかないのではないかと思った。	関係機関
指標の必要性和指標の考え方。 IRの意思決定への関わり方。	1	米国のIRオフィスの活動内容が理解できた。			国立
Barrier Courses Reportの存在。 プロボストの役割。 IR調査の匿名性の求めの高まり。 Common Data setの必要性	1	すべて新しい情報で、各大学に紹介できるから。	IRとルーブリックとの関わり。		関係機関
途中参加となり残念だったが、IRを大きな枠で考え直す機会になった。			IRで得られた情報を学内の審議体制や学部、学科、部署などに示し、教育・経営改善につなげた事例紹介(小さなもので構わないので数多く)。参加者の状況は多様だと思うので、紹介される数が多いと参考にできることが見つけやすくなると思う。		私立